

リスクアセスメント実施一覧表（実施記載例）（製本作業関係）

リスクアセスメント対象 職場	1～3の実施担当者と 実施日	4～6の実施担当者と 実施日	7～8の実施担当者と 実施日

社長 (工場長)	製造部長	製造第○ 課長	

1. 作業名 (機械・設備)	2. 危険性又は有害性と発生のおそれのある災害 (※)	3. 既存の災害防止対策	4. リスクの見積り			5. リスク 低減措置案	6. 措置実施後の リスクの見積り			7. 対応措置		8. 備考
			重篤度	発生 可能性	優先度 (リスク)		重篤度	発生 可能性	優先度 (リスク)	措置 実施日	次年度 検討事項	
各工程 刷本・折本の積換作業	無理な、または不安定な姿勢で紙を持上げ腰痛を発生する。	初めての使用の際、注意事項を説明する。	△	×	Ⅲ	朝礼時で注意する。 正しい姿勢を図解し貼り出す。	△	△	Ⅱ		簡易リフターを導入する。	
断裁 刃（包丁） 交換作業	刃の運搬時に刃に手・指が触れ、手・指を切る。	初めての使用の際、注意事項を説明する。	△	△	Ⅱ	社内認定者以外の作業禁止。 作業時に革手袋を着用する。 刃物運搬時にはケースに入れる。	○	△	Ⅰ			
紙折り 折作業	機械作動中、作業員の袖口が巻き込まれ、腕を打撲する。	「巻き込まれ注意」のシール表示	△	△	Ⅱ	朝礼時等に服装・髪型チェックを行う。	△	○	Ⅰ			
紙折り 折作業	ローラを回転させながら清掃したため、指をローラに挟まれる。	「巻き込まれ注意」のシール表示	△	△	Ⅱ	ローラ清掃時には手動回転のみとする。	○	○	Ⅰ		ローラ部にインターロック保護カバーの設置	
紙折り 調整作業	丸刃（アジロ、ミシン刃）の交換、位置調整中に、刃先に触れて手指を切る。	初めての使用の際、注意事項を説明する。	○	×	Ⅱ	作業時に手袋を着用する。	○	○	Ⅰ			
丁合 丁合作業	手差し給紙部で手動供給中に、搬送爪に手を挟まれる。	巻き込まれ注意」のシール表示	△	△	Ⅱ	巻き込まれ難いようにカバー形状を変更する。	△	○	Ⅰ			
丁合 丁合作業	機械接触中に他の作業者が合図無く機械を始動したため、回転部に手指が巻き込まれる。	初めての使用の際、他の作業者に注意するように説明する。	×	△	Ⅲ	機械接触中は非常停止ボタンを押すようにする。 スタートボタンに「他の作業者確認」の注意表示を行う。	×	○	Ⅱ		予鈴式の2度押し機械始動システムにする。	
無線綴じ 綴じ作業	ホットメルト（180℃前後の高温）に触れて火傷する。	「高温注意」のシール表示	△	△	Ⅱ	作業時に革手袋を着用する。	○	○	Ⅰ		ホットメルトの自動供給装置を設置する。	
仕上げ断裁 刃（包丁） 交換作業	刃交換時に、刃先に触れて手指を切る。	初めての使用の際、注意事項を説明する。	○	×	Ⅱ	社内認定者以外の作業禁止。 作業時に革手袋を着用する。 作業時には、刃先カバーを装着する。	○	○	Ⅰ			

◎災害の重篤度 ×=致命的・重大 △=中程度 ○=軽度

◎優先度 Ⅲ=直ちに解決すべき又は重大なリスクがある。

※ 災害に至る経緯として「～なので、～して」+「～になる」と記述

◎発生可能性 ×=頻繁・可能性が高いか比較的高い

Ⅱ=速やかにリスク低減措置を講ずる必要があるリスクがある。

△=時々・可能性がある

○=ほとんどない・可能性がほとんどない

Ⅰ=必要に応じてリスク低減措置を実施すべきリスクがある。

## リスクアセスメント実施一覧表(実施記載例)(商品販売加工作業関係)

対象職場	1～3の実施担当者の実施日	4～6の実施担当者の実施日	7～8の実施担当者の実施日
倉庫・売場・駐車場・店舗売場・切断作業所	〇〇太郎 平成18年〇月 I 日	△△次郎 平成18年〇月 I 日	□□三郎 平成18年〇月 I 日

店長	次長	売場責任者(主任)	担当

区分	1.作業名 (機械・設備)	2.危険性又は有害性と発生のおそれのある災害(※)	3.既存の災害防止対策	4.リスクの見積り			5.リスク低減措置案	6.措置実施後のリスクの見積り			7.対応措置		8.備考
				重篤度	発生可能性	優先度(リスク)		重篤度	発生可能性	優先度(リスク)	措置実施日	次年度検討事項	
商品運搬作業	台車による運搬作業	重量物を過大積載し、運搬中に操作が出来ず荷崩れや什器に接触し、打撲する。	入社時、使用上の注意を説明する。	△	×	Ⅲ	①台車に積載可能重量を表示する。 ②遵守事項を貼付する。 ③運搬経路を決める。	△	△	Ⅱ	平成19年〇月〇日	①職場巡視により、遵守の徹底と安全強調週間中の作業点検を実施する。 ②主要重量物の重量一覧を貼付する。	優先度大教育実施
		運搬物を高く積みすぎて前方視界不良のために什器に接触し打撲、骨折、切傷する。	入社時、使用上の注意を説明する。	△	×	Ⅲ	①台車に積載可能高さを表示する。 ②遵守事項を貼付する。 ③運搬経路を決める	△	△	Ⅱ	平成19年〇月〇日	①職場巡視により、遵守の徹底と安全強調週間中の作業点検を実施する。 ②売場に出る際高さ位置をしめす印うえお表示する。	優先度大教育実施
材料切断作業	(電動)丸のこによる切断作業	電源プラグを差し込んだまま刃の交換を行い、誤って、スイッチに触れて刃が回転し切傷する。	初めての使用の際、手順と注意事項を説明する。	×	△	Ⅲ	①刃交換作業前の点検で、プラグをぬく。 ②遵守事項を貼付する。	×	○	Ⅱ	平成19年〇月〇日	①職場巡視により、遵守の徹底と安全強調週間中の作業点検を実施する。 ②スイッチにカバー取り付ける。	優先度大教育実施
		切断物の固定を手で行い、押さえていた手を丸のこで切傷する。	初めての使用の際、手順と注意事項を説明する。	×	△	Ⅲ	①クランプ等の固定具を準備する。 ②遵守事項を貼付する。	△	○	Ⅰ	平成20年〇月〇日	①職場巡視により、遵守の徹底と安全強調週間中の作業点検を実施する。 ②切断専用スペースを確保する。	優先度大教育実施
		切断の際コードが引っかかり、取り除こうとした際に誤って丸のこが動いて身体に接触し切傷する。	作業周辺の整理整頓を行う。	×	△	Ⅲ	①作業前点検衣を作業し、実施する。 ②作業環境の定期整備を行う。 ③作業手順を貼付する。	×	○	Ⅱ	平成21年〇月〇日	①職場巡視により、遵守の徹底と安全強調週間中の作業点検を実施する。 ②切断専用スペースを確保する。	優先度大教育実施
		切断物の固定が不安定で、丸のこが動き身体に接触し切傷する。	巡回時に注意する。	×	○	Ⅱ	①クランプ等固定具を準備する。 ②遵守事項を貼付する。	△	○	Ⅰ	平成20年〇月〇日	①職場巡視により、遵守の徹底と安全強調週間中の作業点検を実施する。 ②切断専用スペースを確保する。	優先度中教育実施
店舗売場	カッターによる開梱・切断作業	切断物をしっかりと固定しないため真っ直ぐに切れず、固定した指・手を切傷する。	入社時、使用上の注意を説明する。	○	×	Ⅱ	①切断のための台を準備する。 ②切断物を固定する道具を準備する。 ③手袋で作業をする。	○	△	Ⅰ	平成19年〇月〇日	①職場巡視により、遵守の徹底と安全強調週間中の作業点検を実施する。 ②専用台を設置する。	優先度中教育実施
		引き切る場所に押さえた手を置いているため、指・手を切傷する。	入社時、使用上の注意を説明する。	○	×	Ⅱ	①切断のための台を準備する。 ②切断物を固定する道具を準備する。 ③手袋で作業をする。	○	△	Ⅰ	平成19年〇月〇日	①職場巡視により、遵守の徹底と安全強調週間中の作業点検を実施する。 ②専用台を設置する。	優先度中教育実施
		切断時の姿勢が悪く、自分の身体を切傷する。	巡回時に注意する。	○	×	Ⅱ	①切断のための台を準備する。 ②正しい姿勢でのポスターを貼付する。 ③手袋で作業をする。	○	△	Ⅰ	平成19年〇月〇日	①職場巡視により、遵守の徹底と安全強調週間中の作業点検を実施する。 ②専用台を設置する。	優先度中教育実施

凡例： § 災害の重篤度 ×＝致命的・重大 △＝中程度 ○＝軽度 § 発生可能性 ×＝頻繁・可能性が高いか比較的高い △＝時々・可能性がある ○＝ほとんどない・可能性がほとんどない § 優先度 Ⅲ＝直ちに解決すべき又は重大なリスクがある。 Ⅱ＝速やかにリスク低減措置を講ずる必要のあるリスクがある。 Ⅰ＝必要に応じてリスク低減措置を実施すべきリスクがある。

※（災害に至る過程として「～なので、～して」「～になる」と記述します）

## リスクアセスメント実施一覧表（実施記載例）（食品加工・調理関係）

リスクアセスメント対象職場	1～3の実施担当者の実施日	4～6の実施担当者の実施日	7～8の実施担当者の実施日
鮮魚加工作業・惣菜加工作業・畜産加工作業	鯛 太郎 H18年○月△日	海老 二郎 H18年◎月◇日	平目 三郎 H18年○月△日

店長	副店長	部門長	担当
印	印	印	印

区分	1、作業名 (機械・設備)	2、危険性又は有害性と発生 のおそれのある災害(*)	3、既存の災害防止対策	4、リスクの見積り			5、リスク低減措置案	6、措置実施後のリスクの見積り			7、対応措置		8、備考
				重篤度	発生 可能性	優先度 (リスク)		重篤度	発生 可能性	優先度 (リスク)	措置 実施日	次年度 検討事項	
鮮魚加工作業	鮮魚加工 (包丁)	正しい包丁の研ぎ方や洗浄 方法を行わず、刃に指・手が 触れ怪我をする。	包丁取扱い方法の注意 喚起を行う。	○	×	II	包丁を洗浄する際に刃先の反対 側から行う	○	△	I	H18、○/○	自動洗浄機の導入	優先度は中。多発の原因が 作業のなれによる不注意で あり、しつけ対策で減少可 能。
	冷凍庫内 作業	冷凍庫内の床面が凍りつい ていて、すべり転倒して腕を 骨折する	冷凍庫内整理整頓と霜 取りの徹底	×	○	II	冷凍庫内在庫の削減と管理棚の 設置	△	○	I	H18、○/○	自動霜取り機の導入	優先度は中。商品管理と合 わせて作業がしやすい環境 整備を進める。
惣菜加工作業	惣菜加工 (フライヤー)	揚げ物作業をするとき、高い 位置から商品を入れたり、乱 暴に商品を放り込み、油が跳 ね火傷をする。	商品調理マニュアルによる 教育指導の徹底	△	×	III	油はね防止板の取り付け	△	△	II	H18、○/○	自動油槽投入機の導入 を検討	優先度は大。自動調理器の 導入でほぼなくなるが、商品 種類に全面対応できるかが 課題
		フライヤー清掃作業のため に、油を抜くとき油缶を正しく 設置しないため油が跳ねて火 傷をする。	清掃作業方法の基礎教 育の実施とポスターの掲 示	△	△	II	油缶設置位置の印を床面に記入	△	○	I	H18、○/○	油缶設置つきの機械を 検討	優先度は中。油はねを起こ さない機械上の工夫は可 能。
	作業場床 清掃作業	床面対応シューズの未着用 により、すべり転倒し打撲を する。	床面対応シューズ着用 遵守	△	△	II	作業前の服装確認の実施	△	○	I	H18、○/○	床面のすべり解消素材 を検討	優先度は中。服装点検でほ ぼ防止可能。
畜産加工作業	畜産加工 (スライサー)	肉のスライス加工作業中、刃 物類や動力部に接触し手・指 を巻き込まれ怪我をする。	作業手順の教育の実施 及び注意喚起ポスター の掲示	×	○	II	作業手順の見直し	×	○	II	H18、○/○	無理な積み込み時に停 止する装置を開発し、 導入	肉量の設定が非常に難しく 自動停止による作業の煩雑 さをどうクリアするか課題
		スライサーの電源を入れたま ま清掃・調整作業を行い動力 部に巻き込まれ、手や指を怪 我する。	清掃手順の教育の徹底	×	○	II	動力部清掃手順の見直し、手順 の徹底	×	○	II	H18、○/○	電源作動状態のランプ の設置	優先度は中。発生頻度が低 く視覚装置でほぼ防止可 能。
		スライサーの丸刃を清掃する とき、刃の部分に触れ指を切 る。	丸刃の清掃時は、刃の 部分に注意するよう教育 指導の徹底	△	×	III	丸刃の清掃は、刃の中心から外 へ向って拭くことを徹底する。	△	△	II	H18、○/○	清掃時には切創防止手 袋を使用する(但し、作 業性の考慮は必要)	優先度は大。件数削減には 一番効果が高いが、手袋装 着は作業効率面とのバラ ンスが課題
	冷凍庫内 作業	冷凍庫内の床面が凍りつい ていて、すべり転倒して腕を 骨折する	冷凍庫内整理整頓と霜 取りの徹底	×	○	II	冷凍庫内在庫の削減と管理棚の 設置	△	○	I	H18、○/○	自動霜取り機の導入	優先度は中。商品管理と合 わせて作業がしやすい環境 整備を進める。

凡例： § 災害の重篤度 ×=致命的・重大 △=中程度 ○=軽度 § 発生可能性 ×=頻繁・可能性が高い比較的高い △=時々・可能性がある ○=ほとんどない・可能性がほとんどない  
§ 優先度 III=直ちに解決すべき又は重大なリスクがある。 II=速やかにリスク低減措置を講ずる必要のあるリスクがある。 I=必要に応じてリスク低減措置を実施すべきリスクがある。

※ (災害に至る過程として「～なので、～して」「～になる」と記述します)